



インフラマネジメント“足+テオビリティ”共同研究部門 (“Tastainability” for infrastructure management)

研究代表者 工学研究科インフラ・マネジメント研究センター
 センター長・教授 久田真
 契約相手方 ニチレキ株式会社
 期間 令和5年4月1日～令和10年3月31日(新規:5年間)

* **足+テオビリティ**とは…長寿命やリサイクルなどのさらなる性能・機能を「**プラス**」したニチレキ独自の「**サステナビリティ**」

目的

- 社会におけるニーズの多様化を背景として、様々な人や機能に対応するスマートインフラマネジメントが注目されている。一方で、高度経済成長期等に整備されたインフラの老朽化が進行しており、施設管理者である官公庁の予算や人員の減少とともに、インフラマネジメントの在り方が社会的課題となっている。
- 本研究では、道路を対象に、**データサイエンスを中心とする情報処理技術**と、**ニーズに応じた舗装の創造技術**という先端技術の両輪を活用し、**新しい道路インフラマネジメントシステムの構築**を行い、そのシステムを**官公庁のインフラ維持管理業務に導入するための実証**を行う。

内容

- 先端技術の活用による長寿命化等の機能向上の技術開発
- 先端技術を活用することによる、スマートインフラマネジメントシステムに資する、道路管理者や市民のメリットの評価方法の構築
- 新しい道路インフラマネジメントシステムの構築と実証



東北大学
 インフラ・マネジメント研究センター (IMC)

東北インフラ・マネジメント・プラットフォーム (TIMP) を活用して、技術の地域展開をサポートする。



道路管理者を対象とした勉強会の開催

データサイエンス

新しい道路インフラ
 マネジメントシステム
 の構築



NICHIREKI ニチレキ株式会社

舗装材料

ニーズに応じた舗装の創造技術



実証

官公庁のインフラ維持管理業務に導入するための実証



コンサルティング



工法・施工



スマートインフラマネジメントに対応したデータ活用と舗装の診断・措置技術により、管理者(官公庁)の業務負担軽減と、利用者(市民)の安全性・利便性向上をめざす!